

【参考】「日本第一党殺人未遂事件」のあらましと問題点（まとめ・文責は戸田）

あらまし

- 1：2020年11/24(月)夜、大阪に来ていた伊藤氏が、荒巻の経営する大阪市のバーに行って荒巻に説教しようと思い、荒巻の携帯に電話したが、「定休日だから無理だ」と荒巻に断られた。
- 2：が、その後荒巻から電話があり、話している中で荒巻が激高し、「今から30分で行くから店の前で待ってろ」と言うので、伊藤氏は友人と二人で荒巻経営のバーの前の路上で荒巻を待った。
- 3：すると泥酔した荒巻が来て、すぐに刃物を出して伊藤氏に向かっていった。伊藤氏友人が刃物を持つ荒巻の右手を押さえ、ビルの壁面に押さえつけた。伊藤氏は110番通報をした。
- 4：荒巻は、「チョンコ!」などとヘイトスピーチを繰り返して暴れ出し、友人が押さええている手を振りほどくべく友人を殴ったり蹴ったりし、この騒ぎの中で伊藤氏は荒巻に腹部を刺された。
- 5：伊藤氏は必死に防御対応する中で刺された感覚は無く、かなり出血したが、刺されたことに気がついたのは荒巻が動かなくなってからだった。
- 6：その後すぐに曾根崎警察署の刑事が来て、荒巻は殺人未遂の容疑で逮捕され、伊藤氏は救急搬送され入院した。
幸い傷は浅く、腹膜まで達していなかったなので、すぐに縫合し、偶然にも怪我は軽傷で済んだ。
- 7：伊藤氏は退院後、大阪の警察で2度ほど任意で取り調べを受け、携帯電話のデータ提出など、捜査には全面的に協力していた。
しかし事件から10日後、神奈川県平塚市の伊藤氏の自宅に大阪府警の警備（いわゆる公安）が来て、「荒巻に対する傷害事件」(!)の容疑者として家宅搜索され逮捕された。(!)
- 8：大阪府警での取り調べは事件についてだけではなく、伊藤氏の信条や、所属するクラックの事などに関心があるようで、事件以外のことを聞かれる時間が多かった。
- 9：そして拘留満期が近くなったところに、大阪地検の検事が「荒巻と伊藤氏双方を略式罰金（=非公開の略式裁判）で処理しようと考えている」と言った。
- 10：伊藤氏は荒巻の略式処理（罰金だけで釈放!）に強く抗議すると共に、「正当防衛を主張している私の行った行為が正当防衛にならないのであれば、どんな罪になるのか、正式裁判で決めて欲しい」、と主張して略式起訴を拒否した。
- 11：荒巻は殺人未遂はおろか、傷害にすらならず、喜んで略式罰金を受けて釈放されたが、伊藤氏は「傷害罪」で正式起訴され、「刑事裁判の被告」にされた。
裁判は今後、伊藤氏の居住地を所管する「神奈川県の横浜地裁」で行われる。

<問題点>

- ① 当初は刑事部が取り扱っていた事件を、警備部が引き取ったことで、レイシストに甘い警備部の体質のために、荒巻が殺人未遂で立件されなかったのではないか。
- ② この事件はヘイトクライムであり、より悪質な事件であるが、それが量刑に反映されていない。
- ③ そもそも刺傷事件の被害者で、任意で取り調べにも応じていた人物を逮捕する必要はなく、警備は組織解明などが目的だったのではないか。
- ④ ナイフで刺された被害者の防御行動を犯罪視して捜査令状・逮捕令状を請求する大阪地検!